

平成23年度 第3回

四国地方整備局新技術活用評価委員会の開催 ～有用な技術が育成し、社会に還元されるために～

四国地方整備局は、技術が育成し、社会に還元されることを目的に『四国地方整備局新技術活用評価委員会』を開催いたします。

記

「平成23年度 第3回 四国地方整備局新技術活用評価委員会」

日時：平成24年 3月 1日（木） 13：30～15：30

場所：サポート合同庁舎 7階 702会議室

【審議事項 概要】

1. 新技術の事後評価（5件）

工事の中で使った結果を基に、技術を評価します。

今後の工事で採用する時等に、この結果を参考にしていきます。

2. 『平成22年度 四国テーマ設定技術』

『赤外線調査トータルサポートシステム Jシステム（SK-110019-A）』

現場で試行した結果を基に評価を行います。

<取材でのお願い>

新技術の審議内容については、各技術の秘密・特許情報等にかかる事柄があることから、取材は委員会の頭撮り（平成23年度第2回新技術活用評価委員会の報告まで）のみとさせていただきます。なお、委員会終了後事務局にて取材に応じます。

平成24年 2月28日

<問い合わせ先>



国土交通省 四国地方整備局

企画部 施工企画課長

○ 施工企画課長補佐

こばやし ゆきお
小林 幸雄 (087-851-8061 内線 3451)

ふるさわ ひろゆき
古澤 弘行 (087-851-8061 内線 3453)

～審議技術の概要～

< 事後評価 >

■ 『ツイン側溝 (KK-060046-V)』

側溝の上面に排水のための導水溝を備え、排水性舗装の層内水を線的に集水可能とした排水性舗装に対応した側溝である。

■ 『ドレグレ側溝 (CB-000004-A)』

2次製品の側溝や既設の側溝に排水ドレン金具を取り付け、舗装表面に溜まった雨水を側溝へ排水することができる技術である。

■ 『特殊高所技術 (SK-080009-V)』

高強度のロープや特殊高所機材を用いて従来技術では近接が困難、または不可能であった個所に近接する技術である。

■ 『斜角門形カルバート (CB-050006-A)』

道路と道路、道路と水路の交差角が直角以外で斜角に交差する場合など、対応の自由度を高め、現場毎に自由な角度で対応できる技術である。

■ 『常流循環式トイレ「ウォータス」(HR-060018-V)』

汚水をその場で処理し、その水を洗浄水として利用できるトイレである。

< 試行調査 >

■ 『赤外線調査トータルサポートシステム Jシステム (SK-110019-A)』

本技術は、離れた場所から、赤外線カメラにより点検対象を撮影し、解析を行なうことで、浮き・剥離を検出する技術で、従来は全面打音点検で対応していた。本技術の活用により、点検箇所の絞り込みが可能となり、高所作業や交通規制が削減でき経済性と安全性が向上する。

※ 技術の詳細は、以下のURLにて確認できます。

<http://www.netis.mlit.go.jp/EvalNetis/NewIndex.asp>

平成23年度 第3回四国地方整備局新技術活用評価委員会

議事次第（案）

日時：平成24年 3月 1日（木）13:30～15:30

場所：高松サンポート合同庁舎 702会議室

I. 開会

II. 挨拶（委員長）

III. 議事

1. 平成23年度第2回新技術活用評価委員会の報告等

1-1 平成23年度第2回新技術活用評価委員会の報告等

2. 新技術の事後評価

2-1 四国地方整備局で事後評価を行う技術について

2-2 ツイン側溝

2-3 ドレグレ側溝

2-4 特殊高所技術

2-5 斜角門形カルバート

2-6 常流循環式トイレ「ウォーターズ」

3. 平成22年度四国テーマ設定技術試行について

3-1 試行調査概要

3-2 各調査の結果

3-3 試行調査結果検証

3-4 事後評価

4. 平成24年度四国テーマ設定技術募集について

4-1 平成24年度四国テーマ設定技術募集

5. その他

5-1 1月31日に実施した災害発生時の即日性調査の試行結果について

5-2 第三者機関が実施した技術審査情報の活用方法について

IV. 閉会

「四国地方整備局新技術活用評価委員会」設置趣旨書

1. 設置趣旨

公共工事に関連した民間等による技術の開発は、公共工事の品質の確保や安全で安心な暮らしの実現、良好な環境づくり、快適で生活コストの安い暮らしの実現等に向けて、民間等の分野における技術開発が促進され、優れた技術が産み出され、さらには、改良が加えられ、社会に還元されていく仕組みを確立することが重要です。

四国地方整備局では、これまでにNETIS(New Technology Information System, 新技術情報提供システム)を用いて新技術の活用を推進してきたところではありますが、民間の技術開発の促進およびすぐれた新技術の活用による公共工事の品質の確保、コスト縮減等を強化・促進するために、学・産・官の有識者により構成される「四国地方整備局新技術活用評価委員会」を平成17年6月29日に設置しました。

当委員会においては、公共工事等への有効な新技術の活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査、現場での試行及び事後評価を実施します。

委員会の運営を通じ、四国地方における地場産業、地域特性を生かした地域貢献ならびに防災・減災が図れることが期待できるとともに、全国の公共工事等において新技術の活用促進を図る事により、民間における技術開発が促進され、良い技術が育成し、社会に還元されるスパイラルが確立され、公共工事のさらなる品質の確保、コスト縮減等が期待できます。

2. 新技術活用評価委員会 委員名簿 (敬称略:順不同)

(大 学 5名)

松島 学 香川大学工学部 教授(構造工学、コンクリート工学、信頼性工学、景観工学)

吉田 秀典 香川大学工学部 教授(構造工学、地震工学、維持管理工学)

山口 正隆 愛媛大学工学部 名誉教授(海岸工学、自然災害科学)

高木 方隆 高知工科大学工学部 教授(国土情報処理工学)

渡邊 健 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 准教授

(コンクリート工学)

(産 業 界 3名)

(社)日本建設業連合会四国支部 技術委員会 委員長

(社)建設コンサルタンツ協会四国支部 企画委員会 委員長

(社)日本埋立浚渫協会四国支部 技術委員会 委員長

(研究機関 2名)

(独)土木研究所 材料資源研究グループ長

(独)港湾空港技術研究所 研究評価官

(整 備 局 8名)

四国地方整備局 企画部長 外7名